みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

カムチャッカ半島・コリャーク語による絵本作り

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2009-04-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 呉人, 恵 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001925

コメント 4

カムチャッカ半島・コリャーク語による絵本作り

呉人　恵

私は，1994年からロシア連邦カムチャッカ半島の北部を中心に分布する，話し手約4,000人あまりのコリャーク語（Koryak）という言語の記述研究に取り組んできた。これまでの私の仕事は，文法記述，辞書・テキスト作成などといったいわゆるコリャーク語の記録保存が中心となっていた。そのような研究成果をあげることこそが，私の研究者としての第一義的な責任であると思っていたからである。また，現地のコリャークの人々は，フィールド調査で私からなにがしかの謝金を受け取っているのだから，それで一応満足してくださるっていると思っていた。

しかし，これが穿った見方であることを，私はその後思い知らされることになる。一昨年（2000年）の夏，例年どおり，マガダン州セヴェロ・エヴェンスク地区エヴェンスク村に現地調査に出かけた時のことであった。インフォーマントの１人から，「お前は結局，来て，取るものだけ取って，どこに持っていくのかわからないけれども，自分達には何にも残してくれないじゃないか。コリャーク語を保存するなんて言ってるけれども，そんなことは自分達でするから，もう二度と来なくていい」と厳しいことばを浴びせかけられたのである。

このことをきっかけに，私は，このように言われるということは，今，私自身が研究者として変わっていかなければいけない時期に来ているということなのではないかと思い始めた。まず考えたことは，コリャーク語のような話し手の少ない消滅の危機に瀕した言語に取り組む研究者として，果たして言語の記録保存の仕事だけをしていてよいのだろうかということだった。言語の記録保存は，いわばコリャーク語が「死にゆく言語」であることを前提とした仕事である。しかし，現地の人々は，もちろん，コリャーク語が死んでしまっていいなどとは思っていない。「生きた言語」としてこれからも話されていくことを望んでいる。ただ，その方策が見つからず，無力感に陥っているだけなのである。

京都で2000年11月に開かれた国際シンポジウム「消滅に瀕した言語」でも触れたことだが，私はまた，村のほとんどの子供がコリャーク語を話さなくなっているなかで，たった１人，コリャーク語がよく話せる子供がいることを知っていた。子供は言語を未来へとつないでいく継承者である。その子供のなかにたった１人でもコリャーク語を話せる子供がいる。その事実から目を背けて，私はコリャーク語をただ「死にゆく言語」として記録保存していていいのだろうか。

そのような自問自答のなかから生まれてきたのが，コリャークの老人と子供の交流会

「ムチギン・ジャジェチアン（私たちの家族）」や，コリャーク語による絵本作りである。絵本「カワヒメマスとカレイ」は，私自身が現地で収集した民話を，交流会で老人に語ってもらうために用意した紙芝居をもとに作られた。ELPR（文部科学省特定領域研究「環太平洋の＜消滅に瀕した言語＞にかんする緊急調査研究」）シリーズの中では異色のものだが，これは，言語の記録保存と復興というフィールド言語学者につきつけられる課題と自ら格闘してこられた，ELPR 代表者の宮岡伯人先生，同出版部門責任者の崎山理先生の深いご理解とご支援があって初めて可能になったものであると思う。

このことを期に，私の現地のインフォーマントとの関係は，単に教えられるだけの一方通行のものから，共に働く関係へと質的に変わってきたように思える。なにより，インフォーマントの側に，私との共同作業に喜びを見出す姿勢が生まれてきたことは特筆すべきことである。

とはいえ，地理的に遠く隔たった現地の人々と緊密な協力関係を維持していくのは容易なことではない。そうこうしているうちにも，コリャーク語の豊かな知識の宝庫である老人たちは，１人また１人と亡くなっている。どれだけのことができるかははなはだ心もとないが，フィールド言語学を選んだ以上，そしてまた，復興活動への道を踏み出した以上，あらゆる可能性を模索していきたいと思っている。

文　献

Kurebito, Megumi（ed.）

2001 *Koryak folktale: Kychav' to al'peal'* (*The grayling and the flatfish*). ELPR Publication Series A2-004.